

ネットワンシステムズがワークスタイル変革提案で攻勢 VDIとセットでUC普及の好機つかむ

事業継続対策の強化を背景に仮想デスクトップの導入案件が急増している。ネットワンシステムズではこれを好機として、UCと組み合わせたワークスタイル変革の提案に力を入れている。

文◎坪田弘樹(本誌)

ネットワンシステムズがUC(ユニファイドコミュニケーション)提案に本腰を入れている。

今年4月、場所にとらわれない柔軟なワークスタイルを実現するためのプラットフォーム製品の販売を推進する新組織を立ち上げた。その核となる製品がVDI(仮想デスクトップインフラストラクチャ)とUCだ。

VDIは、PCのデスクトップ環境を仮想化してサーバー上に集約するもの。ネットワーク経由で手元のクライアント端末に画面が転送され、それを利用する。自宅のPC等からでも常に同じデスクトップ環境が使えて、さらにタブレット端末でも利用できるものが増えている。これにより、社内の自席と同じPC作業環境がいつでもどこでも使えるようになる(図表)。

ただし、業務を行うにはPC環境だ

けでは十分でない。個々の社員が分散した状態でもスムーズにコミュニケーションが行える環境が求められる。これに貢献するのがUCだ。

「ワークスタイル変革を考えるうえで、デスクトップ環境とコミュニケーション環境は一緒に考えるべきもの。現状、VDIとUCは別々に導入プロジェクトが進められる傾向にあるが、これが融合した案件を作っていくのが我々のミッション」

4月に新設された、エンタープライズ事業グループ・プラットフォーム営業部・UC推進チームの後藤力也リーダーはそう話す。

急増するVDI導入案件

VDIとUCの組み合わせ提案の推進に向けて、新組織は営業系と技術系の多彩な人員で構成していると



ネットワンシステムズ
エンタープライズ事業
グループ
プラットフォーム営業部
UC推進チーム
リーダー
後藤力也氏

ネットワンシステムズ
エンタープライズ事業
グループ
プラットフォーム営業部
技術チーム
シニアエキスパート
濱田充男氏



いう。サーバーやストレージといった製品や仮想化技術などのエキスパートを集結。昨年度もこれらの人材が営業部隊を支援していたが、より戦略的かつ組織的に「VDI+UC」提案を進めていく方針だ。

この取り組みの背景となっているのが、VDI提案の好調さだ。

2010年度は数件程度だった商談数が、昨年度は急増した。プラットフォーム営業部・技術チームの濱田充男シニアエキスパートは、「2011年度中に見積りを出した数は私だけでも35件を超える。1000台規模の大型案件が多く、ある金融機関では全支店の全端末6000台の置き換えを検討中だ」と話す。

なぜ、これほど好調なのか。濱田氏によれば、仮想化技術の浸透や、製品の進化(1台の物理サーバーへ



ネットワンではVDIの利用を会社支給端末に限定していない。濱田氏も通常、個人のiPadを業務に使用している。ネットワークへの負荷の少ないプレゼンスやIMはVDI環境で使い(写真)、音声通話は内線システムと連携した携帯電話、Web会議はiPadやノートPCのローカル環境でといったふうに使っている